

特集

脳卒中患者の 外来リハビリテーション

脳 卒中患者では、急性期・回復期は入院（医療）リハビリテーションが、生活期は介護保険サービスに移行してのリハビリテーションが主に行われています。しかし、急性期から在宅ベースでのリハビリテーションを希望する患者、回復期リハビリテーション病院退院後も医療でのリハビリテーション継続が望ましい患者など、外来ベースで専門的なリハビリテーションを提供するニーズは増えていると考えられます。保険の改定などにより縮小傾向にある外来リハビリテーションですが、どのような対象に、どのようなリハビリテーションを提供していくことが有効であるのか、介護保険サービスなどどのような連携をすべきか、各分野のエビデンスおよび実践を踏まえて解説していただきました。

外来リハビリテーションの現状と課題

—より充実した在宅リハビリテーションを目指して 速水 聡氏ら……………855

常勤リハビリテーション科専門医3名を擁する、強化型在宅療養支援診療所での取り組みを紹介している。生活期リハビリテーションにおいても、身体機能の改善やADL向上が期待される患者においては、脳卒中治療ガイドラインに準拠したリハビリテーションを実施しており、上肢麻痺に対してHANDS療法を外来で集中的に行い上肢機能の改善を得た例や、装具再評価やボトックス治療で歩行の改善を得た例などの実践例を報告している。

下肢麻痺，歩行障害に対する理学療法の実践 及川真人氏……………863

発症後6～9か月経過した脳卒中患者においても、リハビリテーションによる歩行速度や歩行持久力などの改善があるという先行研究について解説されている。短い介入時間で効率的・効果的に理学療法を行うための手法として、体重免荷トレッドミル歩行トレーニングや体重免荷式歩行器の利用、装具調整などが紹介されている。歩行などのパフォーマンス評価を基に、地域生活における移動能力や、日常生活を行ううえでの生活範囲、生活空間を把握し目標設定を行うことが重要であると述べている。

ニュース “水中探索”楽しんで、県内初の「ゆめ水族館」—国立病院機構宇都宮病院……………869

障害児が通う特別支援学校、免許持つ教員は74%—「2020年度100%」には施策必要……………878

障害もつ子供に音声電子図書……………888

手話で憲法学ぼう—全国研修センターがHP……………889

障害者差別解消法、大学の対応を支援—拠点校に専門家増員（文部科学省）……………908

「職場に必要な配慮は？」、精神障害者雇用の報告書—リカバリーキャラバン隊……………926

リオパラリンピック結団式、目標は金メダル10個……………934

駅ホームで転落死—盲導犬と歩行中に（東京地下鉄）……………934

障害者虐待、職場で970人が被害—賃金減額など最多（厚生労働省調査）……………938

「ノーマライゼーション 障害者の福祉」8月号・特集目次……………938

脳卒中片麻痺による上肢機能障害に対する外来作業療法の実践**—随意運動介助型電気刺激 IVES を中心に 宗村麻紀子氏ら……………871**

脳卒中片麻痺の上肢機能障害に対するリハビリテーションでは、麻痺手への介入の重要性が強調されてきており、脳機能研究の知見に基づいた多角的な治療の有効性が報告されていることが解説されている。自験例では、IVES 併用下での作業療法を外来ベースで実施しており、tDCS と IVES を併用した入院プログラムをはさむ集中訓練プログラム、ロボット療法との併用などの実践とアウトカムを報告している。

失語症に対する外来言語療法の実践 中川良尚氏……………879

失語症の長期経過についての報告がレビューされたのち、自験例 270 例の長期フォロー（平均 52 か月の訓練期間）による失語症の回復過程が報告されている。病巣や年齢により SLTA 総合評価法の得点の伸びや、最高到達点までの平均月数が異なるが、2～3 年は改善がみられることが示され、機能回復の可能性を追求すべきであると述べている。

お知らせ 「運動器疾患及びウロギネコロジー疾患に対する骨盤底筋群の評価と治療」 セミナー……………869

回復期リハビリテーション病棟協会 第 29 回研究大会 in 広島……………889

第 1 回自動車運転に関する合同研究会……………899

第 6 回日本がんリハビリテーション研究会……………930